

ご支援に心より御礼申し上げます

協賛（スポンサー）（敬称略）

法人



株式会社メディカル葵出版/株式会社オグラ/ロート製薬株式会社/興和株式会社/株式会社ホワイトメディカル
ワシエスメディカル株式会社/千寿製薬株式会社/医療法人社団藤和会 加藤眼科/株式会社コーナン・メディカル
株式会社薬研社/医療法人誠療会 尾裕眼科クリニック/医療法人健究社 スマイル眼科クリニック
医療法人社団 後藤眼科医院/株式会社エムイーテクニカ/株式会社モリアジャパン/医療法人社団 玉城眼科
医療法人社団正勢会 市川なかじま眼科/HOYA株式会社/熊本県ライオンズクラブ 献眼献腎献血運動協力会
ノバルティスファーマ株式会社/大塚製薬株式会社/医療法人社団盛仁会 篠崎駅前高橋眼科/わかもと製薬株式会社
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社/鶴見大学眼科（順不同）

個人 坪田一男、出田真二、城間弘喜

参加者の感想

- アニメーション、対談を通して限りある命との向き合い方を豊かにする大切さが心に響きました。（ドナーファミリー）
- 最後に会場でレシピエントの方が「ありがとう」と言ったその気持ちを大切にしたいと思いました。（ドナーファミリー）
- ドナーファミリーのこえを通して皆様の哀しみの先に、移植を受けた者の日々があるのだと、改めて感謝の思いを深くいたしました。（レシピエント）
- それぞれのお立場の言葉が胸にしみました。スタッフが思いを一つにしてドナーファミリーに寄り添っている姿がヒシヒシと伝わる会でした。（サポーター）
- ドナーファミリー、レシピエントのこえを聞くと、移植医療の原点に戻れる気がします。（医療従事者）

次回開催日

第26回

ドナーファミリーの集い®

※招待制

2023年10月29日（日） 14:00～16:00予定
会場：KDDIホール

Twitter開設しました

今年からの新しい試みでドナーファミリーの集い@専用アカウントを開設しました。協賛企業、協力・共催団体のご紹介や本会の進捗状況もツイートさせて頂きました。これからもフォロワーを増やして多くの方に本会について知って頂ければ幸いです。ぜひフォローをお願いいたします。



NEWS LETTER

一般財団法人 視覚健康財団

東京都新宿区信濃町35 慶應義塾大学病院2号館 地下1階

TEL: 03-3226-8033 FAX: 03-6685-6753 E-mail: info@eyebank.tokyo

2022年10月30日（日） 第25回ドナーファミリーの集い® 開催報告

1998年より続けて参りました「ドナーファミリーの集い®」（ドナーとドナーファミリーへの感謝の集い）も今年で25回目を迎え、雲一つない秋晴れの下、総勢107名の方にご参加頂き、無事に終えることができました。ご来場頂きましたドナーファミリー、レシピエント、サポーター、医療従事者の皆様に心より御礼申し上げます。

今年度より当財団が東京歯科大学市川総合病院 角膜センター・アイバンクより主催を引継ぎましたが、これからも献眼という尊いご決断をされたドナー様とごご家族に対する感謝の気持ちを忘れずに、本会の趣旨を引継いで参ります。



共催 東京歯科大学市川総合病院 角膜センター・アイバンク、(公財)山形県アイバンク、(公財)静岡県アイバンク (公財)福井県アイバンク、(公財)兵庫アイバンク、(公財)熊本県移植医療推進財団

協力 児童劇団「大きな夢」、(協)日本俳優連合、特定非営利活動法人 日本ブラインドマラソン協会、日本両棲類研究所 京都府立医大アイバンク、東京大学医学部附属病院 組織バンク、北里大学病院骨バンク (一社)日本スキンバンクネットワーク

後援 厚生労働省、日本角膜学会、(一社)日本再生医療学会、(一社)日本抗加齢医学会、(公社)東京都眼科医会 東京麻布ライオンズクラブ、(福)日本点字図書館、(公財)日本テレビ小鳩文化事業団 (公社)日本臓器移植ネットワーク、東京視覚障害者ランニングクラブ

DONOR FAMILY DAY 主催者挨拶

代表理事 島崎 潤

今年もドナーファミリーの集い®が10月30日に大手町のKDDIホールで開催されました。この集いは、アイバンクや献眼、角膜移植についての正しい理解を広めるとともに、アイバンク活動に関わるドナーファミリー、患者さん、アイバンク関係者、眼科医、そしてサポーターの方々が一堂に会することを目的として始まり、今回で第25回となりました。今回は3年ぶりにリアルで顔を合わせての開催となりました。感染対策で懇親の場を持つことができず、円卓ではなくシアター形式での参加となりましたが、久しぶりのライブ開催はやはりこの会に重要な要素であることが再確認されました。

東京歯科大学角膜センター・アイバンクと並んで、本会における重要な役割を果たしてきた慶應義塾大学病院眼科銀行は、一層その活動の場を広げるために、2021年に(一財)視覚健康財団にアイバンク業務を移管しました。角膜センター・アイバンクも、来年には本財団と合流して力を合わせてアイバンク活動を進めていくことを計画しています。そのため本年は、本財団が主催の形でドナーファミリーの集いを行いました。もちろん、角膜センター・アイバンクも従前と同様にこの集いの開催に尽力しました。

来賓のご挨拶の後、角膜提供をご決断されたドナーファミリーと手術を受けられたレシピエントのお声を、朗読とビデオレターの形で発表しました。ドナーファミリーが、故人のお人柄や献眼に至る経緯をお話くださり、また患者さんは、お受けになった手術やドナーに対する思いをお話されました。私たち眼科医も、普段診察室で伺う表情とは少し違う患者さんの様子を拝見することで、角膜移植に対する皆様の思いを感じることができる貴重な経験となりました。ついで医療従事者の声として、慶應義塾大学病院眼科の平山オサマ先生が登場し、角膜移植医を目指してきた彼の軌跡とドナーへの感謝、レシピエントへの愛情にあふれるスピーチをされました。

今回のプログラムの目玉は、イラストレーターの城井文さんのアニメーション、「象の背中 一旅立つ日」と続編の「続・象の背中 一バトンタッチ」の上映、そしてそれに続く城井さんと司会の木幡美子さんの対談でした。このアニメーションは、幸せに暮らす一家(象の家族として描かれています)のお父様が突然、天に召される運命にあることを知らされ、家族への愛情を残された日々の生活の中で伝え、天国に行った後も変わらず見守る様子を穏やかで少しユーモラスなタッチで描いています。ドナーファミリーの声を聞いた後でもあり、参加者は自分自身の家族にその物語を重ねて会場は深く静かな感動に包まれました。その後の対談では、城井さんの口から作品の成り立ちや反響、日本語に対する愛情やご自身の死生観に至るまでお聞かせくださり、更に心が豊かになるひとときを持つことができました。

最後のパートでは、再びご来賓の方々のご挨拶、ついでドナーファミリーへの感謝の気持ちを込めて、毎年美しい声を聴かせてくださる「児童劇団 大きな夢」の合唱がスクリーンに映し出され清々しい気分のなか会の終了を迎えました。ここに参加して下さった方々、スポンサーの企業団体の方々、いつも素晴らしい朗読をして下さる日本俳優連合の皆様、会の進行になくてはならない司会の木幡美子様、および運営に努力してくれたスタッフに心より感謝の意を表します。



一般財団法人 視覚健康財団
代表理事 島崎 潤



司会: (株)フジテレビジョン
CSR・SDGs推進室
木幡 美子様



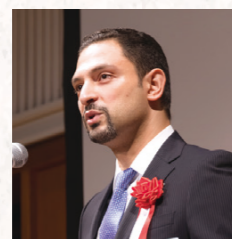
厚生労働省 健康局難病対策
課移植医療対策推進室
室長 西嶋 康浩様



ライオンズクラブ国際協力
330-A地区ガバナー
増田 正明様



東京歯科大学
市川総合病院
病院長 西田 次郎様



慶應義塾大学医学部
眼科学教室
平山 オサマ様



東京麻布ライオンズクラブ
会長 金子 全宏様



ジョンソン・エンド・
ジョンソン(株) ビジョンケア
カンパニー 代表取締役
プレジデント 森村 純様



日本俳優連合
多岐川 まり子様 池水 通洋様

「象の背中」上映 ～対談～

「象の背中～旅立つ日～」

企画のコーナーでは、秋元康さん原作、城井文さん制作のアニメーション「象の背中～旅立つ日～」を鑑賞しました。突然、余命を宣告された父親が、残された時間を家族と過ごし、また、旅立ちの後家族に思いを寄せる姿が描かれています。会場にはご自身の体験に重なる部分をお持ちの方もおられたと思います。誰もが経験する別れの悲しみの中にも、変わることのない家族の愛があふれる温かな気持ちになる物語でした。550万回以上、YouTubeで再生されているアニメーションです。



今回は、このアニメーションの作者である城井文さんにお越しいただき、制作に関するお話や日本語の表現からみられる倫理感や日本人らしさなどについてお話いただきました。

2006年に発行された原作小説は、当時、映画や漫画、アニメーションなどに展開されており、いくつかのご縁で、城井さんがこのアニメーションを手掛けることになったそうです。印象的だったのは、「象」をモチーフにあえて表情を細かく表現しないことで、感情を押し付けるのではなく、家族への想いや最後の別れに対する感情を見ている方の受け取り方に委ねるようにしているという点でした。また、ご自身が早くにお父様を亡くされているご経験や、芸大でありながら学生時代の倫理の学びで得られたものが、現在の作品に結び付いていることがわかる、とても興味深い内容でした。

12月に放映予定のNHK「みんなのうた」でアニメーションを制作しているとのこと。また、山梨県立美術館のご依頼で制作した、「ジャン＝フランソワ・ミレー」もYouTubeでぜひご覧になってください。



アニメーション作家 城井 文氏



QRコードから動画が視聴できます



「象の背中
～旅立つ日～」



アニメ
「ジャン＝フランソワ・ミレー」
(山梨県立美術館)

展示コーナー

ホワイエでは、城井文さんの原画、絵本をご提供いただき、上映アニメーションの世界観で作品展示コーナーを設置しました。また、共催・協力バンク及び、後援の日本臓器移植ネットワークの啓発物を展示しました。これからも皆様にアイバンクのみならず、臓器移植、組織移植についても知る機会を提供して参ります。



児童劇団「大きな夢」による合唱

～ぼくのこころもありがとう～

今年は感染防止対策のため、映像でのご参加となりましたが、児童劇団「大きな夢」より歌の贈り物がありました。一生懸命に歌っている子どもたちの姿は会場の皆様の心に響いたのではないのでしょうか。未来の子どもたちにもアイバンクについてしっかりと伝えていけたらと思います。



児童劇団
「大きな夢」様